

ノーベル賞に関する広報活動・広報戦略

2016年3月

日本学術振興会ストックホルム研究連絡センター

1. はじめに
2. ノーベル・メディア主催のシンポジウムについて
 - 2.1 ノーベル・メディアについて
 - 2.2 「ノーベル・プライズ・インスピレーション・イニシアティブ」について
 - 1) 概要
 - 2) 開催実績
 - 3) 広報活動
 - 2.3 「ノーベル・ウィーク・ダイアログ」について
 - 1) 概要
 - 2) 開催実績
 - 3) 広報活動
 - 4) 当日の会場の様子（ブースについて）
 - 2.4 「ノーベル・プライズ・シリーズ」について
 - 1) 概要
 - 2) 開催実績
 - 3) 広報活動
 - 2.5 考察
3. ノーベル財団主催のシンポジウムについて
 - 3.1 ノーベル財団について
 - 3.2 ノーベル・シンポジウムについて
 - 1) 概要
 - 2) 開催実績
 - 3) 広報活動
 - 3.3 考察
4. スウェーデン王立科学アカデミー（KVA）主催のシンポジウムについて
 - 4.1 KVA について
 - 4.2 「ノーベル・ワークショップ」、「Molecular Frontiers Symposium」について
 - 1) 概要
 - 2) 開催実績
 - 3) 広報活動
 - 4.3 考察

5. カロリンスカ医科大学主催のシンポジウムについて

5.1 カロリンスカ医科大学について

5.2 Karolinska Research Lectures について

- 1) 概要
- 2) 開催実績
- 3) 広報活動

5.3 Nobel Conference について

- 1) 概要
- 2) 開催実績
- 3) 広報活動

5.4 ノーベル賞受賞者を招いたレクチャー、交流行事について

5.4.1 Nobel Revisiting Lecture

- 1) 概要
- 2) 開催実績
- 3) 広報活動

5.4.2 Meet the Nobel Laureates

- 1) 概要
- 2) 開催実績
- 3) 広報活動

5.5 考察

6. おわりに

1. はじめに

カントリーレポートの作成にあたり、今年度は、ノーベル賞に関する広報活動・広報戦略として、①2015年度に開催されたノーベル・メディア主催の様々なシンポジウム¹、②近年開催されたノーベル財団、王立科学アカデミー（KVA）、カロリンスカ医科大学主催のシンポジウムの2点に重点を置き調査を行った。昨年度のカントリーレポートでは、ノーベル賞の広報戦略は、一般市民を啓蒙し、より良い世界の創造に関与するのを促進することを重視しているという結論に至った。今年度新たに開催されたシンポジウムや、昨年度は調査対象に含めなかったシンポジウムについても同様の戦略が取られているか検証することを本レポートの目的とする。

¹ 2014年度までに開催された近年のシンポジウムについては、当センターの2014年度カントリーレポート『スウェーデンにおける知の循環－ノーベル賞の広報活動と我が国との学術交流状況に着目して－』に記載した。

2. ノーベル・メディア主催のシンポジウムについて

本章では、ノーベル・メディアが主催するシンポジウム「ノーベル・プライズ・インスピレーション・イニシアティブ」、「ノーベル・ウィーク・ダイアログ」、「ノーベル・プライズ・シリーズ」について紹介する。

2.1 ノーベル・メディアについて²

ノーベル・メディアは、Nobel Foundation Rights Association 傘下の組織として、ノーベル博物館に次いで 2004 年に発足した。主な業務は、シンポジウムの開催とノーベル財団オフィシャルホームページの管理（もしくはメディア権利全体の管理）である。

Mattias Fyrenius 氏を CEO とし、約 18 名が職員として所属しているが、繁忙期となるノーベル賞発表後の 11 月から授賞式が行われる 12 月については非常勤職員を雇い対応している。

ノーベル・メディアはロンドンにもオフィスを構えており、このオフィスの Editorial Director は Adam Smith 氏が勤めている。海外オフィス設置にあたり、ヨーロッパ内で影響力があり、英語圏であるという利点を考慮し、ロンドンが選ばれたようである。このオフィスは、ノーベル・メディア本体の主催シンポジウムで講演するノーベル賞受賞者への連絡を担当しており、受賞者とノーベル・メディアの橋渡しとしての役割を果たしている。

2.2 「ノーベル・プライズ・インスピレーション・イニシアティブ」について

1) 概要

「ノーベル・プライズ・インスピレーション・イニシアティブ」(Nobel Prize Inspiration Initiative) は、2010 年からノーベル・メディアと製薬会社であるアストラゼネカが主催している。主に、海外の大学にてノーベル賞受賞者がレクチャーをし、学生とディスカッションなどを行うイベントである³。

2) 開催実績

開催実績は、以下のとおりである^{4 5}。

² Alfred Nobel の意思の継承者達ーノーベル博物館・ノーベルの活動調査ー「平成 25 年度日本学術振興会学術交流研修海外実務研修報告書集」p.141-142、p.145-146 を参照 日本学術振興会 HP に掲載されている。

http://www.jsps.go.jp/j-kaigai_center/data/kenshu/h25_report.pdf

³ 前掲注 2 の報告書 p.146 を参照

⁴ ノーベル・プライズ・インスピレーション・イニシアティブ HP <http://www.nobelprizeii.org/> 参照

⁵ 2010 年～2014 年の開催実績は、スウェーデンにおける知の循環ーノーベル賞の広報活動と我が国との学術交流状況に着目してーp.13 掲載 日本学術振興会海外学術動向ポータルサイトに掲載されている。

http://www.overseas-news.jsps.go.jp/wp/wp-content/uploads/2015/06/2014countryreport_05sto.pdf

※HP へのアクセスは全て 2016 年 2 月 22 日

2015 年（2 回開催）

①開催日・国：2015 年 9 月 10 日～11 日・アメリカ

講演者：Randy Schekman（2013 年、生理学・医学賞）

参加者：University of Maryland, Baltimore、Johns Hopkins University, Baltimore、
AstraZeneca MedImmune Campus, Gaithersburg に所属する研究者

②開催日・国：2015 年 10 月 27 日～29 日・ブラジル

講演者：Bruce Beutler（2011 年、生理学・医学賞）

参加者：Universidade de São Paulo、Fiocruz、Agência Nacional de Vigilância
Sanitária (National Health Surveillance Agency, Anvisa)、Universidade de
Brasília に所属する研究者

3) 広報活動

2014 年 2 月 21 日に二上が行ったノーベル・メディア Lena Abrahamsson 氏へのインタ
ビューにおいて、PR 業務は基本的にアストラゼネカが行っているとの回答があった。また、
本シンポジウムは大学が主な開催地となるため、大学内で周知は行うが町中に開催を知ら
せるようなポスターを貼るなどの PR は行わないとのことである⁶。

Twitter (@NobelPrizeii) での開催案内が行われていた。

各回の開催報告や写真等については、オフィシャル HP (<http://www.nobelprizeii.org/>)
に情報を掲載し、更新時に Facebook ([https://www.facebook.com/NobelPrizeInspiration
Initiative](https://www.facebook.com/NobelPrizeInspirationInitiative)) で情報を拡散している。

2.3 「ノーベル・ウィーク・ダイアログ」について

1) 概要

「ノーベル・ウィーク・ダイアログ」(Nobel Week Dialogue) とは、2012 年より毎年ス
ウェーデンにおいてノーベル賞授賞式の時期に開催されている一般向けの公開シンポジウ
ムである。ノーベル賞や世界における重要課題について、ノーベル賞受賞者や世界で活躍
するトップレベルの科学者、社会に影響力のある著名人、政治家、他様々な団体や一般市
民を含む社会全体の議論を促進し、科学界とその他の社会との深い対話を実現することを
目的に開催されている⁷。

本イベントは、ノーベル・メディアが、スポンサーである Akademiska Hus、Carl Bennet
AB、ヨーテボリ市、Ericsson、Region Västra Götaland、Volvo Group と協力のもと、
開催している。第 4 回目となる 2015 年は、協力財団として Sten A Olssons Stiftelse för
Forskning och Kultur が加わった。二上による Lena Abrahamsson ノーベルメディア事

⁶ 前掲注 2 の報告書 p.150 を参照

⁷ ノーベル・ウィーク・ダイアログ HP <http://www.nobelweekdialogue.org/> 参照（2016 年 2 月 22 日アクセス）

業・イベント課長へのインタビューによると、スポンサーは基本的に 4 回契約となっており、より親密な連携を図りながら協力ができているとのことである⁸。

2015 年 3 月 1 日には東京において、国外での開催初となる、「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2015」が開催された⁹。2017 年 2 月 26 日に「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2017」が開催予定である¹⁰。

2) 開催実績

開催実績は以下のとおりである^{11 12}。

2015 年（第 4 回）

開催日・場所：2015 年 12 月 9 日・The Swedish Exhibition & Congress Centre（ヨーテボリ市）

テーマ：The Future of Intelligence

出演者：32 名のパネリスト

うちノーベル賞受賞者は以下のとおり

Michael Levitt（2013 年、化学賞）

Edvard Moser（2014 年、生理学・医学賞）

May-Britt Moser（2014 年、生理学・医学賞）

Randy Schekman（2013 年、生理学・医学賞）

Robert J. Shiller（2013 年、経済学賞）

Carl Wieman（2013 年、経済学賞）

参加者：1500 名以上、63 か国以上の人々が参加。当日の様子はオンデマンドでライブ中継された。

プログラム：6 回の講演、対話、10 回のパネルディスカッション

その他：

(i) Twitter で参加者からの質問・意見を募集し、寄せられた意見の一部をステージ上で発表していた。

(ii) ノーベル賞受賞者の Frank Wilczek（2004 年、物理学賞）が、遠隔地から操作できるロボットを通じて参加していた。ステージ上でモデレーター、パネリストと交流した他、休憩時間には一般参加者と交流していた。

⁸ 前掲注 2 の報告書 p.150 を参照

⁹ 「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2015 生命科学が拓く未来」参照 日本学術振興会 HP に掲載されている。
https://www.jsps.go.jp/renkei_suishin/npdTokyo2015/data/report_i.pdf

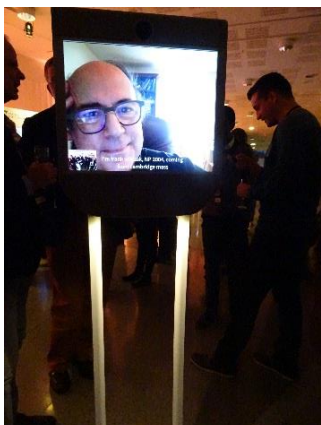
¹⁰ 日本学術振興会 HP <https://www.jsps.go.jp/> 参照

¹¹ ノーベル・メディア HP <http://www.nobelprize.org/events/nobel-week-dialogue/2015/> 参照
前掲注 7 の HP 参照

¹² 2012 年～2014 年の開催実績は、前掲注 5 のレポート p.16 掲載

※HP へのアクセスは全て 2016 年 2 月 22 日

一般参加者と交流する Frank Wilczek



3) 広報活動

インターネットでの広報活動について以下にまとめた。

手段：ノーベル財団ウェブサイト(<http://www.nobelprize.org/>)

特設ウェブサイト(<http://www.nobelweekdialogue.org/>)

YouTube (<https://www.youtube.com/user/thenobelprize?gl=JP&hl=ja>)

Twitter (@NobelPrize、@NobelDialogue)

Facebook (<https://www.facebook.com/events/699577593477270/>)

Twitter、Facebook では、参加方法、決定事項（テーマ、出演者等）について随時更新をしていた。Twitter では、テーマに関連する事項についてアンケートを取っていた。（What do you think: Will humans be more intelligent in 30 years? (Yes/No)）

また、YouTube 公式チャンネルにおいて、参加登録を促す宣伝（参加登録受付開始後）、出演予定者へのインタビュー（開催直前）を配信している。配信開始時には Twitter、Facebook 上で動画の配信について広報している。

4) 当日の会場の様子（ブースについて）

メイン会場の外に協力機関、協力財団によるブースが設置され、各機関による事業内容等の PR が行われていた。開始前や休憩時にはブース付近でコーヒーやお菓子を提供し、参加者のブース訪問を促していた。また、International Science Festival Gothenburg の宣伝のためのブースが設置されていた。

各ブースの写真は以下のとおりである。

①協力機関 VOLVO によるブース



②協力機関 Region Västra Götaland によるブース



③協力機関ヨーテボリ市によるブース



④協力機関 Ericsson によるブース



⑤協力機関 AKADEMISKA HUS によるブース



⑥協力財団 Sten AOlssons Stiftelse för Forskning och Kultur によるブース



⑦International Science Festival Gothenburg のブース



2.4 「ノーベル・プライズ・シリーズ」について

1) 概要

「ノーベル・プライズ・シリーズ」(Nobel Prize Series) は、一般向けの公開イベントであり、革新と創造的な思考をかき立てることを目的としている。ノーベル賞受賞者、専門家、学者によるカンファレンス、講演が行われる他、展示も行われた。

本イベントは、ノーベル・メディア、ノーベル博物館が、南洋理工大学、Saab、Scania、Stockholm Business Region、Singapore Management University と協力のもと、開催した¹³。

2) 開催実績

開催実績は以下のとおりである¹⁴。

①カンファレンス

開催日・場所：2015年11月5日・南洋理工大学

テーマ：The Future of Learning

出演者：ノーベル賞受賞者、トップレベルの科学者、政治家、社会に影響のある著名人が20か国から集まった。

ノーベル賞受賞者は以下のとおり

Stefan Hell (2014年、化学賞)

Ada Yonath (2009年、化学賞)

¹³ ノーベル・メディア HP <http://www.nobelprize.org/events/nobel-prize-series/index.html> 参照

¹⁴ 前掲注13のHP参照

ArtScience Museum HP
<http://www.marinabaysands.com/museum/exhibition-archive/the-nobel-prize-ideas-changing-the-world/the-exhibition.html> 参照

※HPへのアクセスは全て2016年2月22日

Sir Harold Kroto (1996 年、化学賞)

Wole Soyinka (1986 年、文学賞)

Sir James Mirrlees (1996 年、経済学賞)

参加者：1700 名、当日の様子はオンデマンドでライブ中継された。

②講演

開催日・場所：2015 年 11 月 6 日・南洋理工大学、National Gallery Singapore、Singapore Management University

出演者：上記カンファレンス参加のノーベル賞受賞者 5 名

参加者：1200 名以上

③展示

開催日・場所：2015 年 11 月 7 日～2016 年 1 月 24 日・ArtScience Museum

テーマ：The Nobel Prize – Ideas Changing the World (ノーベル賞、アルフレッド・ノーベル、数十年に渡るノーベル賞、日常生活におけるノーベル賞、未来のノーベル賞の 5 つのサブテーマで構成される。)

その他：

(i) 入場料無料

(ii) 過去 30 年間シンガポールの科学的開発に貢献したノーベル賞受賞者 Sydney Brenner (2002 年、生理学・医学賞) に焦点を当てた説明も行われた。

3) 広報活動

インターネットでの広報活動について以下にまとめた。

手段：ノーベル財団ウェブサイト (<http://www.nobelprize.org/events/nobel-prize-series/>)

南洋理工大学ウェブサイトの専用のページ (<http://cohass.ntu.edu.sg/NewsnEvents/Announcements/Pages/Nobel-Prize-Series-Singapore-2015.aspx?print=1>)

Twitter (@NobelPrize、@NobelDialogue)

Twitter では、ライブ中継の紹介、開催案内を行っていた。

開催報告や写真、動画等については、オフィシャル HP に情報を掲載し、更新時に Twitter で情報を拡散している。

2.5 考察

ノーベル・メディアは、ノーベル・プライズ・ダイアログ (東京・2015)、ノーベル・プライズ・インスピレーション・イニシアティブ (アメリカ、ブラジル・2015)、ノーベル・プライズ・シリーズ (シンガポール・2015) のように、近年積極的にスウェーデン国外で

のイベントを開催しており、各国の市民にノーベル賞受賞者、世界をリードする研究者等との交流機会を提供している。また、**Twitter**や**Facebook**のようなソーシャルメディアを利用した情報発信を積極的に行っている他、ノーベル・ウィーク・ダイアログ（ヨーテボリ・2015）、ノーベル・プライズ・シリーズ（シンガポール・2015）ではイベントのライブ中継を行い、開催国以外の市民にもイベントに関わる機会を提供している。

ノーベル賞および学術研究が一般市民にとって身近なものとなるよう工夫し、世界規模の課題について個々人が考える機会を提供していると言える。

3. ノーベル財団主催のシンポジウムについて

本章では、ノーベル財団が主催する「ノーベル・シンポジウム」について紹介する。

3.1 ノーベル財団について

ノーベル財団は、アルフレッド・ノーベルの遺言に基づいて 1900 年に設立された民間機関である。ノーベル財団は、対外的にノーベル賞運営機関を代表しており、基金の管理、ノーベル賞に関する広報活動を担っている。また、ノーベル財団は、ノーベル・シンポジウムの運営を行っている。

3.2 ノーベル・シンポジウムについて¹⁵

1) 概要

ノーベル財団が主催する「ノーベル・シンポジウム」(Nobel Symposia) は 1965 年に開始された。第 1 回の開催以来、約 160 回開催されており、知識、研究経験の国際的な交換の場として大きな役割を果たしてきた。シンポジウムでは、スウェーデン国内をはじめ、世界各国の研究者を集め、最先端の研究に関する知識の交換を行っている。スウェーデン人文・社会科学財団 (Riksbankens Jubileumsfond¹⁶) およびクヌート・アンド・アリス・ヴァーレンベリ財団 (Knut and Alice Wallenberg Foundation¹⁷) が開催経費を支援している。

2) 開催実績

近年の開催実績は、以下のとおりである。

①2012 年 (第 152 回)

開催日：2012 年 6 月 11 日～15 日

場所：ヨーテボリ市・スウェーデン

テーマ：Physics with Radioactive Beams

②2012 年 (第 153 回)

開催日：2012 年 8 月 12 日～16 日

場所：スコーネ県・スウェーデン

テーマ：Nanoscale Energy Converters

¹⁵ http://www.nobelprize.org/nobel_organizations/nobelfoundation/symposia/ (2016 年 1 月 21 日アクセス)

¹⁶ スウェーデン人文・社会科学財団 <http://www.rj.se/en/About-RJ/>

¹⁷ クヌート・アンド・アリス・ヴァーレンベリ財団 <https://www.wallenberg.com/kaw/en>

③2013年（第154回）

開催日：2013年5月13日～17日

場所：ウプサラ市・スウェーデン

テーマ：Large Hadron Collider

④2013年（第155回）

開催日：2013年9月3日～5日

場所：ストックホルム市・スウェーデン

テーマ：Economic Growth and Development

⑤2014年（第156回）

開催日：2014年6月13日～15日

場所：ストックホルム市・スウェーデン

テーマ：New forms of Matter - Topological Insulators and Superconductors

⑥2014年（第157回）

開催日：2014年6月18日～22日

場所：オスロ市・ノルウェー

テーマ：Does the rise and fall of great powers lead to conflict and war?

⑦2015年（第158回）

開催日：2015年6月14日～18日

場所：シグチュナ市・スウェーデン

テーマ：Free Electron Laser Research

⑧2015年（第159回）

開催日：2015年6月10日～13日

場所：ヴェステルハーニング市・スウェーデン

テーマ：Adaptive immunity: Defence and Attack

3) 広報活動

ノーベル・シンポジウム開催に関する広報活動については、ノーベル財団のホームページ (http://www.nobelprize.org/nobel_organizations/nobel_foundation/symposia/) および開催機関（会場となる大学・研究機関）のホームページにおいて案内されている。また、開催後には、上記、ノーベル財団のホームページにおいて、各シンポジウムのオーガナイザーによるシンポジウムの概要が掲載されている。

3.3 考察

ノーベル財団は1965年から40年間に渡り、スウェーデン国内およびノルウェーにおいて、ノーベル賞に関連する各分野のシンポジウムを開催している。これらのシンポジウムは、世界各国の研究者の交流の場であるだけでなく、各地で開催されることにより、一般社会にとって、ノーベル賞をより身近なものとしている。賞の授与だけでなく、科学と社会の距離を縮め、科学に対する興味関心を高めるための広報活動・広報戦略であると言える。

4. スウェーデン王立科学アカデミー (KVA) 主催のシンポジウムについて

本章では、KVA が主催するシンポジウム「ノーベル・ワークショップ」、「Molecular Frontiers Symposium」について紹介する。

4.1 KVA について¹⁸

KVA とは、1739 年に創立された独立行政法人で、学術の振興と社会における影響力向上を目的として以下のような活動を行っている。

- ・ 研究者が専門分野を超えて討論できる場の提供
- ・ 優れた研究環境の提供
- ・ 若手研究者支援
- ・ 研究に対する卓越した貢献への褒賞
- ・ 研究者間の国際的交流機会の提供
- ・ 学術の意見の代弁者となり、研究政策の優先順位に影響を及ぼすこと
- ・ 学校教育の中の数学、自然科学に対する興味をかき立てること
- ・ さまざまな形での学術情報の提供

また、ノーベル物理学賞、ノーベル化学賞、ノーベル経済学賞の選考委員会が設置されており、各賞の受賞者発表は KVA 内で行われる。

4.2 「ノーベル・ワークショップ」、「Molecular Frontiers Symposium」について

1) 概要

「ノーベル・ワークショップ」、「Molecular Frontiers Symposium」は一般向けの公開イベントであり、両イベントにノーベル賞受賞者を含むトップレベルの科学者が集まり、プレゼンテーション、パネルディスカッションを行った。

「ノーベル・ワークショップ」は、KVA、シャルマーシュ工科大学、Hasselblad Foundation、Vetenskapsrådet、Kungliga Vetenskaps- och Vitterhets-Samhället、ノーベル賞選考委員会（物理学賞、化学賞、生理学・医学賞）、Gothenburg Centre for Advanced Studies in Science and Technology、Mabel Dorn Foundation の共催により開催され、「Molecular Frontiers Symposium」は、KVA、Molecular Frontiers の共催により開催された¹⁹。

2) 開催実績

¹⁸ KVA HP <http://www.kva.se/en/About-the-academy/> 参照

¹⁹ KVA HP <http://www.kva.se/en/Events-List/2015/nobel-workshop/>
<http://www.kva.se/en/Events-List/2015/frontiers-of-molecular-sciences/> 参照

※HP へのアクセスは全て 2016 年 2 月 22 日

開催実績は以下のとおりである²⁰。

①ノーベル・ワークショップ

開催日・場所：2015年5月4日～6日・シャルマーシュ工科大学

テーマ：Molecules in Life Science Research（5月4日）

Molecules in Nano and Energy Research（5月5日）

Molecules in Materials Research（5月6日）

講演者：27名

うちノーベル賞受賞者は、以下のとおり。

Arieh Warshel（2013年、化学賞）

Michael Levitt（2013年、化学賞）

Roger Kornberg（2006年、化学賞）

Kurt Wüthrich（2002年、化学賞）

Jean-Marie Lehn（1987年、化学賞）

Barry Sharpless（2001年、化学賞）

Stefan Hell（2014年、化学賞）

William E. Moerner（2014年、化学賞）

Andrew Fire（2006年、生理学・医学賞）

プログラム：27回の講演、3回のパネルディスカッション

その他：当日の様子はオンデマンドでライブ中継された。

②Molecular Frontiers Symposium

開催日・場所：2015年5月7日～8日・シャルマーシュ工科大学

テーマ：Frontiers in Molecular Sciences

講演者：13名

うちノーベル賞受賞者は以下のとおり

Ahmed Zewail（1999年、化学賞）

Arvid Carlsson（2000年、生理学・医学賞）

中村 修二（2014年、物理学賞）

プログラム：13回の講演、1回のパネルディスカッション等

その他：スウェーデンの高校生200名が招待された。

当日の様子はオンデマンドでライブ中継された。

3) 広報活動

²⁰ 前掲注19のHP参照（2016年2月22日アクセス）

インターネットでの広報活動について、以下にまとめた。

手段：KVA のイベントページ

(ノーベル・ワークショップ：

<http://www.kva.se/en/Events-List/2015/nobel-workshop/>

Molecular Frontiers Symposium：

<http://www.kva.se/en/Events-List/2015/frontiers-of-molecular-sciences/>)

シャルマーシュ工科大学のイベントページ

(<http://www.chalmers.se/en/news/Pages/an-amazing-week-at-chalmers.aspx>)

Twitter (@vetenskapsakad)

Twitter では、ライブ中継の紹介、開催案内を行っていた。

当日の様子については、以下に掲載されている。

シャルマーシュ工科大学のウェブサイト (<http://www.chalmers.se/en/areas-of-advance/materials/news/Pages/Truly-an-amazing-week.aspx>)

KVATV (<http://kva.screen9.tv/>)

YouTube

(ノーベル・ワークショップ：

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLHXgzqnOl9mq1-8ZG0Cpt3EWTb0OvZPtF>

Molecular Frontiers Symposium：

https://www.youtube.com/playlist?list=PLrkvqYtQI86DJqNvO-0EeyCB_4Z1ePJff)

各回の開催報告や写真等については、オフィシャル HP (<http://www.nobelprizeii.org/>) に情報を掲載し、更新時に Facebook (<https://www.facebook.com/NobelPrizeInspirationInitiative>) で情報を拡散している。

4.3 考察

一般に向けた公開イベントだけでなく、高校生を対象に含めたイベントを開催することで、対象に合わせた情報発信をし、より多くの市民にノーベル賞およびトップレベルの研究に対する理解を深めてもらうことを可能にしている。また、イベントのライブ中継や、ソーシャルメディアを利用した情報発信を積極的に行うことで、世界各地の市民がイベントに関わることを可能にしている。

5. カロリンスカ医科大学主催のシンポジウムについて

本章では、カロリンスカ医科大学とノーベル賞との関わりおよび大学が主催するシンポジウムについて紹介する。

5.1 カロリンスカ医科大学²¹について

カロリンスカ医科大学（Karolinska Institutet）は、1810年に国王カール13世によって、軍医を養成するアカデミーとして設立された。現在では、人類の健康促進への寄与を目的とし、教育・研究を実施している。カロリンスカ医科大学は、スウェーデンにおいて、最大の医科教育研究の拠点として、国内の40%以上の医学研究を主導しており、様々な領域の医学・健康科学に関する教育を提供している、世界でも有数の医科大学である。

カロリンスカ医科大学には、アルフレッド・ノーベルの遺志により、1901年から、生理学・医学賞の選考を行う Nobel Assembly²²が設置されている。Nobel Assembly には、カロリンスカ医科大学医学部門の教授50名がメンバーとして所属している。Nobel Assembly は、年5回の会合を開催し、ノーベル生理学・医学賞の候補者選出を行うとともに、Nobel Committee²³として5名のメンバーと事務局長を選出する。また、毎年、10月の第一月曜日にノーベル生理学・医学賞の選考投票を実施している。Nobel Assembly の会合が行われ、事務局長の執務室が入る Nobel Forum には、100名程度収容可能な部屋があり、ノーベル生理学・医学賞の発表会場として利用されている。この部屋を開放して、カロリンスカ医科大学の主催するシンポジウム²⁴が行われている。



Nobel Forum, The Nobel Assembly at Karolinska Institutet より転載

5.2 Karolinska Research Lectures について

1) 概要

Nobel Forum で開催されるシンポジウムの1つに「Karolinska Research Lectures」がある。同シンポジウムでは、世界各国の著名な研究者を招き、生体医学分野の最先端の研

²¹ Karolinska Institutet <http://ki.se/en/about/startpage>

²² Nobel Assembly <http://www.nobelprizemedicine.org/selecting-laureates/the-nobel-assembly/>

²³ Nobel Committee <http://www.nobelprizemedicine.org/selecting-laureates/the-nobel-committee/>

²⁴ カロリンスカ医科大学イベントカレンダー <http://ki.se/en/news/ki-calendar>

※HP へのアクセスは全て 2016 年 1 月 21 日

究成果に関する講演会が開催されている。シンポジウム参加者は、カロリンスカ医科大学の研究者・学生が中心となるが、一般にも公開されている。

2) 開催実績

2014年度~2015年度の開催実績は、以下のとおりである。

①開催日：2014年4月24日

講演者：Guido Kroemer (University of Paris Descartes・フランス)

タイトル：Cell death in pathophysiology: inexorable, avoidable or desirable

②開催日：2014年9月18日

講演者：田中啓二 (東京都医学総合研究所・日本)

タイトル：Basic Mechanisms and Physiopathological Roles of Eukaryotic
Proteasomes

③開催日：2014年10月16日

講演者：Wolf Reik (The Babraham Institute Cambridge・英国)

タイトル：Epigenetic reprogramming in mammalian development

④開催日：2014年11月13日

講演者：Ronald DePinho (University of Texas MD Anderson Cancer Center・米国)

タイトル：Telomeres in Cancer and Aging

⑤開催日：2015年2月19日

講演者：Itzhak Fried (University of California Los Angeles・米国)

タイトル：Neuromodulation of human memory: From single neuron recordings to
clinical intervention.

⑥開催日：2015年3月19日

講演者：Junying Yuan (Harvard Medical School・米国)

タイトル：Regulation of necroptosis and inflammation by RIPK1

⑦開催日：2015年4月16日

講演者：Michael Lynch (Indiana University・米国)

タイトル：Mutation, Drift, and the origin or subcellular features

⑧開催日：2015年9月17日

講演者：Vijay K. Kuchroo (Harvard Medical School and Brigham and Women's Hospital)

タイトル：Single-cell genomics identifies novel regulators of metabolic and functional states of Th17 cells

⑨開催日：2015年10月5日

講演者：John O'Shea (National Institute of Health・米国)

タイトル：Basic and Applied Cytokine Signaling: From Jakinibs to Super-enhancers

⑩開催日：2015年11月5日

講演者：Huda Y. Zoghbi (Texas Children's Hospital・米国)

タイトル：On the level: Lessons in neuronal function from Rett syndrome and related disorders

⑪開催日：2016年2月18日

講演者：Jan H.J.Hoeijmakers (Erasmus MC・オランダ)

タイトル：Maintaining Nature's Perfection: the impact of DNA repair on sustained health

⑫開催日：2016年3月17日

講演者：Eve Marder (Brandeis University・米国)

タイトル：Robustness, Variability, Modulation, and Homeostasis in Neurons and Networks

3) 広報活動

レクチャーに関する広報活動については、Nobel Assembly 公式サイト (<http://www.nobelprizemedicine.org/>) 及びカロリンスカ医科大学イベントカレンダー (<http://ki.se/en/news/ki-calendar>)、公式ソーシャルメディア(カロリンスカ医科大学公式 Facebook <https://www.facebook.com/karolinskainstitutetenglish>, カロリンスカ医科大学公式 Twitter <https://twitter.com/karolinskainst>)等において案内されている。

5.3 Nobel Conference について

1) 概要

Nobel Forum では、1年に1~3回程度「Nobel Conference」を開催している。同イベントは、1980年から開始され、2015年に第62回目が開催された。同イベントでは特定のテーマを選択し、その分野におけるスウェーデン国内や世界各国の著名な研究者を20名以上招き、研究情報の交換、議論を行っている。また、同イベントでは、講演だけではなく、

ポスターセッションやラウンドテーブルディスカッションが行われることもある。同イベントは、専門性が高いため、参加者は研究者、学生が中心となるが、一般にも公開されている。

2) 開催実績

近年の開催実績は、以下のとおりである。

①第 60 回

開催日：2013 年 8 月 28 日～8 月 30 日

テーマ：“Biofilm Formation, its Clinical Impact and Potential Treatment”

②第 61 回

開催日：2014 年 10 月 7 日～10 月 9 日

テーマ：“Mechanisms and Systems Biology of Transcription”

③第 62 回

開催日：2015 年 5 月 28 日～5 月 29 日

テーマ：“Combat Metabolic Diseases- New Strategies”

3) 広報活動

イベントに関する広報活動については、Nobel Assembly 公式サイト (<http://www.nobelprizemedicine.org/>) 及びカロリンスカ医科大学イベントカレンダー (<http://ki.se/en/news/ki-calendar>)、公式ソーシャルメディア(カロリンスカ医科大学公式 Facebook <https://www.facebook.com/karolinskainstitutetenglish>, カロリンスカ医科大学公式 Twitter <https://twitter.com/karolinskainst>)等において案内されている。

5.4 ノーベル賞受賞者を招いたレクチャー、交流行事について

本節では、カロリンスカ医科大学において開催されたノーベル生理学・医学賞受賞者を招いたレクチャー、交流行事について紹介する。

5.4.1 Nobel Revisiting Lecture

1) 概要

2014 年に、Revisiting Lecture (再訪レクチャー) と題して、2001 年生理学・医学賞受賞者である Tim Hunt 教授を招き、講演会が開催された。講演会では、ノーベル賞授賞後の研究状況及び成果が発表された。レクチャーの様子は、YouTube にて公開された。同レクチャーは、現在までのところ、第 2 回目は開催されていない。

2) 開催実績

開催日：2014 年 3 月 12 日

会場：ノーベル・フォーラム (カロリンスカ医科大学・ソルナキャンパス)

講演者：Tim Hunt (2001 年 生理学・医学賞受賞者)

タイトル：“The control of progression into, through and out of mitosis”

3) 広報活動

レクチャーに関する広報活動については、Nobel Assembly 公式サイト (<http://www.nobelprizemedicine.org/>) 及びカロリンスカ医科大学イベントカレンダー (<http://ki.se/en/news/ki-calendar>)、公式ソーシャルメディア (カロリンスカ医科大学公式 Facebook <https://www.facebook.com/karolinskainstitutetenglish>、カロリンスカ医科大学公式 Twitter <https://twitter.com/karolinskainst>) 等において案内されている。また、レクチャーの様子は、Nobel Assembly の公式サイトと通して YouTube にて公開されている。

YouTube にて公開された講演の様子

<https://www.youtube.com/channel/UCgsB8DWmpBtLb4TcuBbMq1A?feature=watch>

5.4.2 Meet the Nobel Laureates

1) 概要

12 月上旬のノーベル賞授賞式・晩餐会、各種関連行事の開催されるノーベル・ウィークに合わせて、毎年 12 月 12 日に開催されている。2013 年、2014 年のイベントでは、その年のノーベル生理学・医学賞受賞者を招かれた。イベントでは、講演は行われず、参加者であるカロリンスカ医科大学の研究者、学生との質疑応答が実施された。

2015 年は、同イベントは開催されていない。

2) 開催実績

①開催日：2013 年 12 月 12 日

参加者：James E. Rothman, Randy W. Schekman, Thomas C. Südhof (2013 年生理学・医学賞受賞者)

②開催日：2014 年 12 月 12 日

参加者：John O'Keefe, May-Britt Moser, Edvard Moser (2014 年生理学・医学賞受賞者)



Nobel Forum, The Nobel Assembly at Karolinska Institutet より転載

3) 広報活動

交流行事に関する広報活動については、Nobel Assembly 公式サイト (<http://www.nobelprizemedicine.org/>) 及びカロリンスカ医科大学イベントカレンダー (<http://ki.se/en/news/ki-calendar>)、公式ソーシャルメディア (カロリンスカ医科大学公式 Facebook <https://www.facebook.com/karolinskainstitutetenglish>、カロリンスカ医科大学公式 Twitter <https://twitter.com/karolinskainst>) 等において案内されている。

5.5 考察

カロリンスカ医科大学においては、生理学・医学分野におけるノーベル賞受賞者を含む、世界的研究者を招へいし、レクチャー、交流行事が開催されている。これらのイベントは、カロリンスカ医科大学の学生・研究者を中心に広く一般市民を参加対象としている。第一線で活躍する研究者を招へいすることにより、生理学・医学分野における最先端の研究動向を知ってもらう役割を担っている。

6. おわりに

近年、ノーベル・メディアは、ノーベル・プライズ・ダイアログ（東京・2015）、ノーベル・プライズ・インスピレーション・イニシアティブ（アメリカ、ブラジル・2015）、ノーベル・プライズ・シリーズ（シンガポール・2015）のように、スウェーデン国外におけるイベントの開催に積極的である。世界各地でイベントを開催することによって、各国の市民にノーベル賞受賞者、世界をリードする研究者等との交流機会を提供している。これらのイベントにより、より良い世界を創ることに貢献するというノーベル賞の特性を世界各国の人知ってもらうことが可能となり、学術研究と社会の距離を縮め、世界規模の課題について個々人が考える機会を提供していると言える。

一方で、スウェーデン国内を中心に開催されているノーベル財団・王立科学アカデミー（KVA）・カロリンスカ医科大学主催のシンポジウムでは、世界各国の著名な研究者を招き、現地市民や学生・研究者を対象に講演やディスカッションの場を提供している。これらのイベントも知識、研究経験の国際的な交換の場として大きな役割を果たしていると同時に、世界最先端の研究の動きに関する情報が集まる場ともなっていると言える。

また、ノーベル・メディア、KVA 主催のシンポジウムではソーシャルメディアを利用した広報が積極的に行われており、ノーベル賞が世界中の一般市民にとって身近な存在となるよう工夫がなされていた。

ノーベル賞の広報戦略は、一般市民を啓蒙し、より良い世界の創造に関与するのを促進することを重視していると言える。